

亡き創始者を思い歌う

高齢者施設を訪れて歌や踊りを披露しているボランティア友の会「ひまわり」が発足から20年を迎えた。当初から会を引っ張ってきた男性が亡くなった後も、「歌でお年寄りを元気にしたい」との遺志を継いで活動を続けてきた。男性の墓の近くを公演で訪れた際には墓前で必ず合唱する歌がある。男性が好きだった「ふるさと」。亡き人との絆が心の「ふるさと」として会員を支えている。

ボランティア「ひまわり」20周年



ボランティア先で元木さん(左)のアカordeオン演奏に合せて歌う前田さん(右)1997年、徳島市内(前田さん提供)

阿波物語

絆の「ふるさと」胸に お年寄り励ます



高齢者の前でフラダンスを踊るひまわりの前田さん(前列左から2人目)ら一鳴門市撫養町のデイサービスセンターほほえみ

現在活動しているのは60〜70代を中心に約20人。徳島県内の施設に月5〜7回ほど出向いており、これまでの公演回数は約1400回に上る。
誕生のきっかけをつくったのはアカordeオン演奏の腕前が女人はだだった連合徳島職員の元木太郎さん(享年69)。1997年、歌好きだった連合徳島

女性委員の前田すづきさん(69)「藍住町矢上、団体職員」を誘って施設訪問を始めた。
元木さんが憧れのアカordeオンを買ったのは新入社員時代。長年趣味で楽しんでいて、定年退職して連合徳島のアドバイザーに招かれてから時間に余裕ができ、以前から温めていた思いを実現することにし

軌道に乗っていた2007年夏、元木さんに進行した肺がんが見つかり入院。「ひまわりのこと頼むわ

た。
2人は翌98年、全労済県本部などが開いた介護ヘルパー講座の修了生に呼び掛け、約40人でひまわりを発足させる。
他にもある。亡くなる直前の07年に徳島市立木工会館で始めた「歌声喫茶」だ。月1回開き、訪れた人が元木さんのアカordeオンと吉田三重子さん(59)「石井町浦庄、主婦」のピアノ演奏に合わせて歌う。
09年4月からは県労働福祉会館別館に場所を移して名称を「うたごえ広場」と変えた。当初約20人だった参

加者は約100人に増え、吉田さんは「こんな大きなイベントになったよ」と(天国に)伝えたい」と言っ
03年にひまわりに入った佐々木隆さん(69)「徳島市名東町2」は、歌うだけでなく楽器にも挑戦したいと思っていたところ、元木さんにオカリナを勧められ、一緒に教室に通った。「楽器は根気が大切じゃ」。思うようにいかなかった時は励ましてくれ、めきめき上達した。今では公演で伴奏している。
ひまわりの会員は今月8日、鳴門市撫養町立岩のデイサービスセンターほほえみを訪れ、白いレイと赤い衣装を身に着けて壇上に立っていた。

を響かせる。(木村恭明)